



僕も探してみてね!



## **安全な街** **を目指して発信!**

京都市聴覚言語障害センター青空工房では、なかまと一緒に飛び出し坊やを作り設置しました。ここには、きこえない・きこえにくい方がたくさんおられます。

飛び出し坊やを通じて誰かが飛び出してくるかもしれない危険があることを周知するとともに、地域や走行中の方々にクラクションが鳴っても聞こえず分からない事を理解していただき、お互いに注意していけるようにという思いで作成しました。



### INDEX

- P2 職場での合理的配慮を学ぶ
- P3 利用者主体の意思決定を!
- P4 自分らしく過ごせる場を求めて
- P5 「京都 北から南まで」[職員紹介]
- P6 「お知らせ」「コラム 思う」

### リニューアル!

より読みやすくなりました♪





# 「職場での聴覚障害者の合理的配慮を学ぶ」

～イベント開催～



10月26日（土）、「職場での聴覚障害者の合理的配慮を学ぶ」を開催しました。

このイベントは、聞こえに不便や不安があっても、安心して暮らせるまちづくりを目指し、聴覚障害者の職場でのコミュニケーション、コミュニケーション支援機器の活用、学習、交流を通じて、聞こえに障害のある方の社会参



加を促進することを目的としています。

オンラインで開催し、当事者・支援者・行政・企業あわせて50人の方に参加いただきました。

## 企画①

ミニ講演

## 「合理的配慮を学ぶ」

最初に、一般社団法人京都府聴覚障害者協会の内川大輔氏から、合理的配慮のポイントや注意点を含めた説明がありました。

合理的配慮は「気遣いや心配り」ではなく、障害のある

人が障害のない人と同様に参加するための「合理的環境調整」という視点が重要であるとのことのお話がありました。

## 企画②

## 企業実践報告

続いて、京セラ株式会社総務人事本部ダイバーシティ推進室DEI推進課の森麻里子氏による実践報告では、聞こえに障害のある従業員およびサポートする従業員で「デファファミリー」という集団が立ち上がり、手話の勉強会やミーティングを行っておられ、聴覚障害のある従業員の上司も参加することで、聴覚障害に対する理解の促進につながっているとのことでした。

## 企画③

当事者と企業の座談会

## 「互いに働きやすい環境づくりのためにできること」

座談会では、企画①②に登壇いただいた内川氏、森氏に加えて、京都府中途失聴・難

聴者協会の西岡保氏、名古屋難聴者・中途失聴者支援協会の荒谷克巳氏にも登壇いただき、当事者と企業それぞれの立場でお話しいただきました。当事者は、自分を知り、自分のことを相手に伝えることが大切ですが、その段階で踏み出せない人が多い現状があります。しかし、当事者同士の共感や、企業側の相談しやすい環境によって、当事者と企業がともに働きやすい環境を作ることにつながるという内容でした。

## 企画を終えて

聴覚障害のある従業員が働きやすい職場にするためには、物理的な環境を整備する「ハード面」と、職場での理解を深め、業務を進めやすいよう配慮を心がける「ソフト面」の両方の視点が重要です。

ICTの進歩にともない、選択肢が多くある中で、企業や当事者に寄り添い実現可能な環境整備を提案し、聴覚障害者の社会参加を促進するために取り組んでまいります。

（情報提供施設第一部

加藤佳奈）

京都府難聴ポータルサイト

# KIKOE SUPPORT

きこえ サポート



聞こえに関する情報・コラム  
イベント情報など随時掲載中

## LINE公式アカウント



KIKOE SUPPORTの  
更新情報など  
随時配信中！

友だち追加  
お願いします！

障害者支援施設 京都市聴言言語障害センター 若木寮（以下若木寮）はセンターの3階にある入所支援施設です。施設には20代〜80代の主に聴覚に障害がある重複障害の方々が生活をされています。

## 自治会活動

若木寮には利用者自治会「若木会」があります。若木会の役員は会長・副会長・書記・会計・新聞係・給食係・衛生係・レクリエーション係合わせて10名の利用者がそれぞれの役割を立候補により決定し、一年間活動します。役員会では「今生活していて困っていることはないか」「みんなが参加できる企画を考えよう」等話し合いが行われ、まとめられた内容を全体会で報告し意見交換を行います。

## 今年もみんなで旅行に行きたい!!

「青森県に泊まりで行きたい、飛行機に乗りたい」、「生駒山上遊園地に行きたい」、「長島温泉に行きたい」、「京都の寺院めぐりがしたい」



琵琶湖とカモメと私！



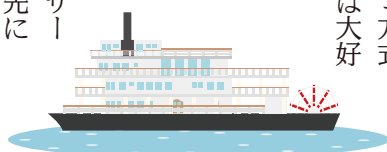
揺れながら食べたbuffet（琵琶湖汽船HPより転載）

# ミシガンに乗りたい！ 利用者主体の意思決定を！

「比叡山ガーデンミュージアムを見学したい」、「琵琶湖のミシガンに乗りたい」と意見が出ました。利用者の中にはその場所のイメージがつかない人もおられるため、それぞれの場所の写真を掲示し、参考にしてもらえるよう工夫しました。その上で、「若木寮には若い人もいれば高齢者もいる。若くても高齢者でもみんなが楽しめる場所はどこか」ということをみなさんで考え

ていただいた結果、琵琶湖のミシガンクルーズに決まりました。  
**待ちに待った  
ミシガンクルーズ**  
11月20日、待ちに待ったミシガンクルーズ当日、みなさんいつも以上に早起きで準備されていました。行きのバスの中では役員が考えたビンゴゲームで盛り上がり、あつという間に大津港に到着。目の

前に停泊する大きなミシガンを見て「おおきい?」、「こんな船乗るのは初めて!」等、ワクワクしながら乗船しました。レストランは豪華な内装で窓からは琵琶湖と比良山系の山々が見える最高の空間で、「揺れてる!揺れてる!」と、とても興奮されていました。buffet方式のランチでは大好



きなデザートから先に食べる人、生ハムばかり食べる人、一通り全部食べるぞと意気込んでいる人、みなさんとても素敵な笑顔で楽しく食事をされました。その後、滋賀県琵琶湖博物館に寄り、琵琶湖に生息する魚をみて、ナマズなどは水槽に顔がつくくらいは距離で真剣に見学され

ていました。

## 最後に

若木寮には現在、25名の方が生活されており、25通りの意見が出ます。そんな中でも行き先やバスの中でのレクリエーションを考える等、利用者主体の意思決定を支援できたことは私たち職員にとっても嬉しいことです。今後一人ひとりがしっかりと意思決定できるよう、職員のコミュニケーション力を高め、利用者も職員も一緒に楽しく過ごすことができる施設づくりをしていきます。

（施設福祉部 松宮梓）



自分たちより魚の方が大きい!!



# 自分らしく過ごせる場を求めて

## 特別養護老人ホーム入所から障害者支援施設入所へ

令和4年に特別養護老人ホーム梅の木寮（以下梅の木寮）に入所された仁木良英さんは、当時61歳ながら、長年の入院生活で体が弱り、胃ろうやインシュリン注射が必要な状態でした。入所後、手話



入所3か月で大好きなキーボードを楽しむまで回復されました。

### 栗の木寮へ行ってみたい

梅の木寮の中では、自分で車椅子に移ってリビングへ来て、周りの方々にも「お話できますか？」と話しかけられるようになりました。しかし年齢差や、病気等で話がかみ合わない方々もいたため、

### 仁木さんが栗の木寮入所に至るまで

昭和36年 出生。  
昭和54年 聾学校高等部卒業後、障害者支援施設に入所  
平成19年 施設内でコミュニケーションの行き違いから周囲の方々のトラブルが頻繁になり、精神科へ入院。以降入院生活を繰り返す。  
平成21年 入院中に2型糖尿病判明。  
平成27年 誤嚥性肺炎を起こす。  
平成28年 胃ろう増設。（自己抜去防止のため手を拘束して対応）→身体機能が低下し車椅子生活に。  
令和元年 チューブの自己抜去があるため薬で鎮静。終日寝たきり。手話での会話も見られなくなる。  
令和4年 体調安定。病院からの相談を受けて梅の木寮へ入所。梅の木寮でみるみる元気に。本人の希望で栗の木寮への移行の支援開始。  
令和6年 栗の木寮に入所。



栗の木寮での作業体験の様子

「（こは）お年寄りばかりで嫌」という立ちを募らせることが増えました。元気になった仁木さんにとって、歳が近く同じように元気な方がおられる障害者支援施設栗の木寮（以下栗の木寮）が楽しめるのではないかと職員間で話し合い、仁木さんに提案しました。ご本人も交流を望まれ、栗の木寮の作業体験の日を設定しました。

### 梅の木寮バイバイ

初回の体験後に仁木さんは「また行きたい」「栗の木寮のみんなと話したい」と笑顔が増えました。3回の体験を経



栗の木寮で仲間ができて、旅行も一緒に行きました。

ると、自分の力を発揮し、できたことを共有できる仲間がいることに喜びを感じておられ、梅の木寮の中でいら立ちをあらわにされることも減りました。同行した職員も、集中して作業に取り組まれる様子を見て、栗の木寮へ移ることが増えると実感しました。

### いつ行けるの？

体調が落ち着いている今、ご本人が望んでいる栗の木寮への移行を支援しようと、ご家族にも確認を行い、支援を開始しました。

栗の木寮へ移るためには、障害福祉サービスの受給決定が必要ため、相談員から行政へ相談を行いました。しかし、介護保険サービスを受けている方が障害福祉サービス

に移行するケースはほとんど無く、「なぜ介護度5で特養に入った方が栗の木寮へ移るのか」との返事で、なかなかスムーズには進みませんでした。入所後の様子を丁寧に説明し、認定調査を受けるまでずいぶん時間がかかりました。やっと受給できることが決まった矢先に今度は仁木さんが体調を崩して入院。もう少しで本人の希望が叶えられそうな時にどうなるか職員も心配しました。

### 栗の木寮が好き！

現在、仁木さんは栗の木寮で過ごされています。とても元気なご様子を栗の木寮の職員と共有するたびに、うれしくなります。仁木さん自身も、用事で梅の木寮に訪れて元気に「栗の木寮楽しい！大好き！」と言ってくださいます。

最初は寝たきりで過ごしていた仁木さんが、生き活きと過ごせる環境を自分で選ばれたことと、仁木さんの思いを大事にする援助を梅の木寮でできたことが職員の喜びと、今後の自信になりました。（施設第二福祉部 川崎郁子）



舞鶴市聴覚言語障害者支援センターは、迫力満点の護衛艦が停泊する海上自衛隊舞鶴北吸係留所の近くに位置し、舞鶴市中総合会館の3階にあります。

11月10日、中総合会館4階ホールにて、京都府中途失聴・難聴者協会舞鶴支部主催「健康長寿はコミュニケーションから

## 京都 北から南まで

舞鶴市聴覚言語障害者支援センター



## きこえにくいことを諦めない社会に

「きこえの低下を考える」講演会が開催されました。当センターも企画準備から関わり本番を迎えました。当日は「医療」「教育」「福祉」の柱で3名の講師が登場されました。

民生児童委員、学生、包括支援センター職員など約90名が集い、コミュニケーションが健康を維持するうえでとても大事であることなど、きこえの低下とともに考える良い機会となりました。

近い将来、介護保険対象者が身体の変化によって、日常生活を健全に営みにくくなるため、健康長寿に暮らすことができるように、生活習慣病の見直しなどがなされています。きこえの低下により、地域コミュニティや家庭内でも聞き間違いが多くひとりでは悩まれている方もおられるのではないのでしょうか。

きこえについて、理解を広めることで、きこえにくくなることを諦めるのではなく、当たり前前に社会参加できる社会となるように、関係者の皆さんとともに歩み続けたいと思います。

(舞鶴市聴覚言語障害者支援センター 河地徹)

## 職員紹介

にじっこ  
エピソード



京都市聴覚言語障害センター  
施設福祉部入所支援課

西村 知暉(入職2年目)

2023年4月に新卒で障害者支援施設『京都市聴覚言語障害センター 若木寮』(以下『若木寮』)に支援員として入職しました。『若

木寮』では聴覚言語に加え他の障害を併せ持った方々が共に暮らしています。

僕は生まれつき「小耳症」という障害を持っています。先日、当法人の事業である『にじっこ』で「小耳症」を持つ乳幼児とその家族に自分の経験を話す機会がありました。小さいころから今までの自分や家族の思いを振り返る中で気づいたことがあります。それは自分の耳の障害というより、特性として前向きにとらえる環境で育ててもらったこと、そして今こうして働いているのは友人や周囲の

人たちに恵まれてきたからだということです。また、『にじっこ』のお母さん方からは子どもの幸せのために懸命に子育てをされている温かい家族の存在を感じました。大人になった当事者でもある僕はこれからも「いろいろ困難はあるけど決して悲しい人生ではなく、うれしい人生です」を伝えていければと思います。

職場ではまだまだ未熟ですが、入所されている方の思いや願いを知り、一緒に考えられる支援者になれるよう日々努力していきたいと思っています。

## 2025年1月17日より施行された 補償金支給法学習会

日時 2025年3月1日(土) 14:00~16:00

会場 京都弁護士会館

主催 旧優生保護法による被害者とともに歩む京都の会

問合せ info@deaf-kyoto.or.jp

受講無料  
定員70名

手話通訳・文字情報あり  
Zoom視聴参加OK



弁護士 和田 浩氏





その大好きなおじいちゃん  
が脳梗塞になって、ある

とき「もどろぎさん」と  
いつた神社に朝早くお参り  
にいき、家中お騒ぎにな  
りました。間もなく帰りま  
したがおばあちゃんが凄  
剣幕でおじいちゃんに食  
てかかりました。間もなく  
おじいちゃんも後を追っ  
て亡くなりました。当時のこ  
とを母は息子をおじいちゃ  
んに取られて泣いていたと  
いいます。

近所の子供たちと仲良く  
していましたが、その中に  
「もとさん」といったかな  
り年のいった子供もいまし  
たがいつもニコニコして  
しゃべらなかつたようで発  
達障害児でなかつたでしょ  
うか。こどもたちの中に  
「ひよこ」ちゃんといった  
可愛い女の子がいましたが  
間もなく姿を消しました。  
耳が聞こえなくなつたそう  
ですが、私が聞こえていた  
頃の話です。

(続く)



## 幼き日々

理事長 高田 英一

おめでとうございます

## 2024年秋の叙勲・褒章

敬意を表すとともにお祝い申し上げます。



旭日双光章

小中 栄一様  
(元全日本ろうあ連盟副理事長・富山)

社会の様々な分野における功績を称え授与される勲章です。  
長きにわたり、きこえない・きこえにくい人の権利を守り、  
その地位向上の運動に貢献されました。



緑綬褒章

宇治手話サークル太陽様

社会奉仕活動に従事し、顕著な実績のある個人・団体に贈  
られる褒章です。

約40年間、長きにわたり、地域のろう者のみなさんと積み  
重ねてこられた活動が実を結ばれました。

あなたの声が  
聴言ニュース  
を作る！

～アンケートのお願い～



アンケートフォーム



各事業所の  
企画や取り組み  
SNS発信中！

法人後援会  
会員の状況

2024年10月1日～12月31日  
までにご加入

734名 (新規 57名 継続 677名)

法人へのご寄付 敬称略

2024年10月1日～12月31日

| 地域  | 氏名     |         |
|-----|--------|---------|
| 山科区 | 竹中 紀子  | 毛糸 7玉ほど |
| 山科区 | 森山 キミコ | 毛糸      |
| 山科区 | 匿名     | レース、古着物 |
| 伏見区 | 高橋 喜彰  | 皿 10枚   |
| 綾部市 | 大槻 光子  | ハガキ 56枚 |



社会福祉法人

京都聴覚言語障害者福祉協会

法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003

京都府聴覚言語障害センター

TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター

TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311

いこいの村聴覚言語障害センター

TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページ  
はこちら

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>